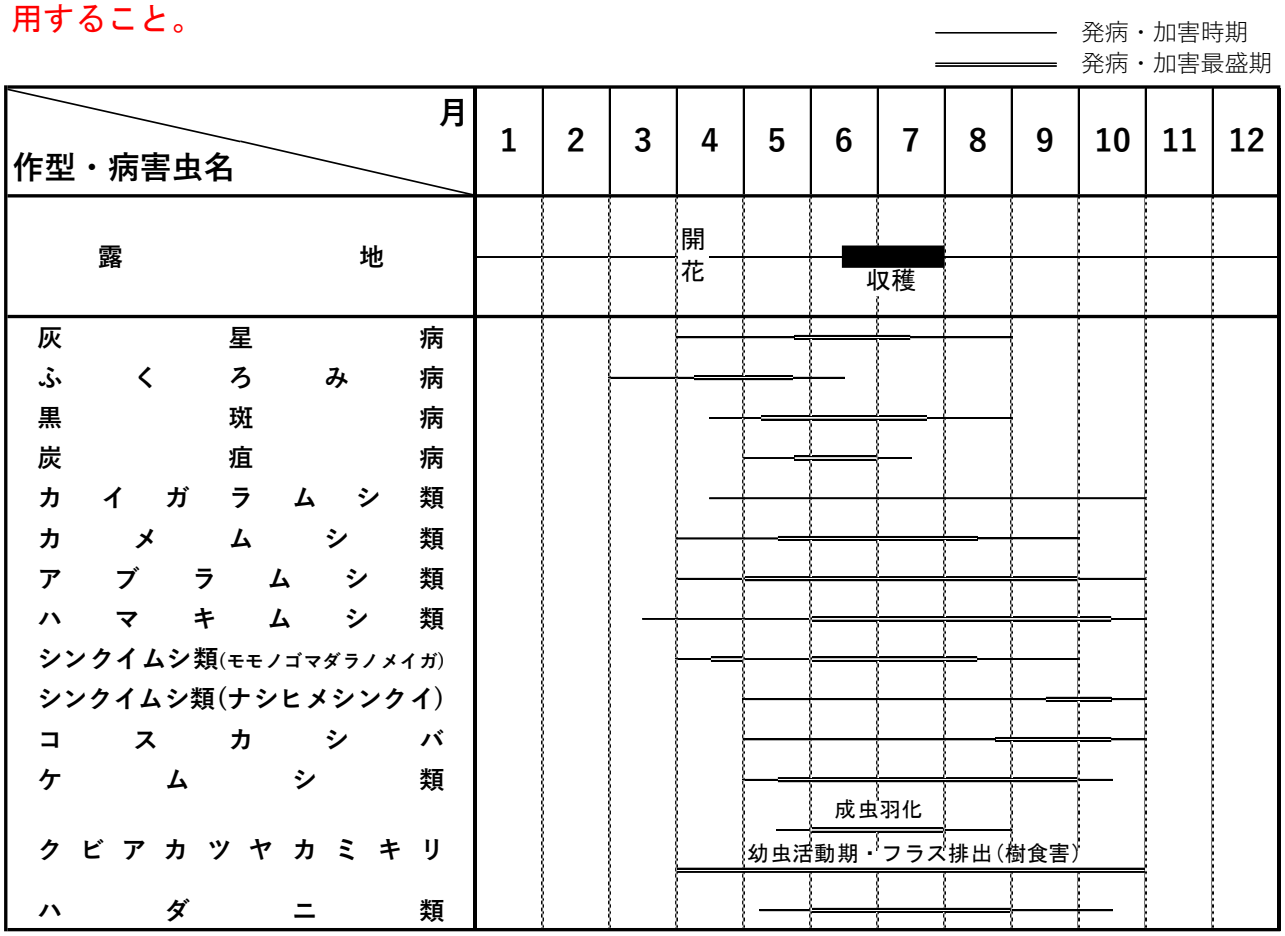
すもも

「すもも」には、「すもも」「小粒核果類」「核果類」「果樹類」に適用のある農薬を使用すること。



灰星病

留意事項

1 開花期間中と、成熟期に降雨が多いと多発する。

2 SDHI剤≪７≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 被害果枝や枯枝、ミイラ果は、ほ場外に持ち出し処分する。

2 発生が見込まれる時期（開花前後及び収穫20～30日前から収穫期）に下記の薬剤を散布する。

・ベルクート水和剤　＜Ｍ７＞【1000～2000倍　3日／3回】

・トップジンM水和剤　＜１＞【小粒核果類　1000～1500倍　21日／3回】

・パスワード顆粒水和剤　＜１７＞【1000～1500倍　前日／2回】

3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ロブラール水和剤　＜２＞【1000～1500倍　前日／3回】

・トリフミン水和剤　＜３＞【1000倍　前日／3回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・オンリーワンフロアブル ＜３＞【小粒核果類(除うめ) 2000倍　前日／3回】
・パレード15フロアブル ≪７≫
【小粒核果類　灰星病(すもも)　2000～3000倍　前日／2回】

ふくろみ病

留意事項

1 発芽期から開花期にかけ、雨の日が多いと多発する。
2 薬剤散布は風のない日を選び、枝先まで散布ムラがないよう丁寧に行う。
3 ソルダムでは発病が多い。大石早生やサンタローザ、ビューティー、太陽では少ない。
4 チオノックフロアブルは、かぶれに注意する。

防除方法

1 発芽前に下記の薬剤を散布する。
・石灰硫黄合剤 ＜－＞【140倍　－／－】
・チオノックフロアブル ＜Ｍ３＞【500倍　14日／3回】
・ホーマイコート ＜Ｍ３＞ ＜１＞【50～100倍　休眠期／1回】
2 伝染源になるので発病果は摘除し、土中に埋めるか、ほ場外へ持ち出し処分する。

黒斑病

留意事項

1 もものせん孔細菌病と同一の病原細菌によって発病する。
2 樹勢の衰弱、強風及び暴風は発病を助長する。
3 品種によって発病に差があり、サンタローザ、大石早生、ビューティーメスレーに多く、ソルダム、太陽は少ない。
4 ICボルドー412は薬害の恐れがあるため、開花後から8月下旬までは使用しない。

防除方法

1 植付けにあたっては、風当たりの強い場所を避ける。
2 肥培管理に注意し、樹勢を旺盛にする。
3 被害枝や枯枝は、ほ場外に持ち出し処分する。
4 休眠期及び秋季に下記の薬剤を散布する。
・ICボルドー412 ＜Ｍ１＞【30倍　－／－】
・Zボルドー ＜Ｍ１＞【500倍　発病前～発病初期(休眠期) ／－】
5 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
・バリダシン液剤5 ＜Ｕ１８＞【500倍　3日／4回】
6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・アグレプト水和剤 ＜２５＞【1000倍　30日／2回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・アグリマイシン-100 ＜２５＞ ＜４１＞【1500倍　30日／2回】
・マイコシールド ＜４１＞【2000倍　21日／3回】
・スターナ水和剤 ＜３１＞【1000倍　7日／3回】

炭疽病（たんそびょう）

留意事項

1 4月～6月に降雨が続くと発病が多い。
2 QoI剤≪１１≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
3 チオノックフロアブルは、かぶれに注意する。

防除方法

1 被害果や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。
2 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
・チオノックフロアブル ＜Ｍ３＞【500倍　14日／3回】
・ストロビードライフロアブル ≪１１≫【2000倍　7日／3回】

カイガラムシ類

留意事項

1 アプロード水和剤は若齢幼虫発生期（5月上～中旬）に散布する。
2 なるべく天敵への影響の少ない薬剤（アプロード水和剤）を散布する。

防除方法

1 越冬期（12月中～下旬）に下記の薬剤を散布する。
・石灰硫黄合剤 ＜ＵＮ＞【落葉果樹　7～10倍　発芽前／ー】
2 第1世代幼虫発生期（5月上～中旬）に下記の薬剤を散布する。
・アプロード水和剤 ＜１６＞【カイガラムシ類幼虫　1000倍　14日／2回】
・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【2000倍　前日／3回】
・トランスフォームフロアブル ＜４Ｃ＞【小粒核果類　1000～2000倍　3日／3回】

カメムシ類

留意事項

1 発生量や加害時期は年により変動するので、園内への飛来状況に応じて早めに防除する。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ＜４Ａ＞
【小粒核果類　2000倍　前日／3回】
・ダントツ水溶剤 ＜４Ａ＞【2000～4000倍　3日／3回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ーすももー

アブラムシ類

留意事項

1 発芽展葉期の防除に重点を置く。

2 開花期の薬剤散布は訪花昆虫に影響するため、開花前か開花後に行う。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【2000～4000倍　前日／3回】

・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ＜４Ａ＞
【小粒核果類　2000倍　前日／3回】

・アディオンフロアブル ＜３Ａ＞【1500倍　前日／2回】

ハマキムシ類

防除方法

1 発生の初期に下記の薬剤を散布する。

・サムコルフロアブル10 ＜２８＞【2500～5000倍　3日／3回】

・ダイアジノン水和剤34 劇 ＜１Ｂ＞【1000～1500倍　21日／4回】

・ＢＴ剤 ＜１１Ａ＞（Ｘ果樹類の病害虫防除　果樹類　参照）

シンクイムシ類

留意事項

1 ナシヒメシンクイは年に5回～6回モモノゴマダラノメイガは年3回発生する。

防除方法

1 被害果や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。

2 産卵期から幼虫加害期（5月上旬～7月下旬）に下記の薬剤を散布する。

・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【2000～4000倍　前日／3回】

・ディアナWDG ＜５＞【5000倍　前日／2回】

・サムコルフロアブル10 ＜２８＞【2500倍　3日／3回】

・フェニックス顆粒水和剤 ＜２８＞【4000倍　前日／2回】

コスカシバ

留意事項

1 成虫は年1回5月～10月に発生し、幼虫で越冬する。

防除方法

1 常に樹勢を旺盛に保つように肥培管理に注意する。

2 春期に虫フンの出ているところを目標に削り、幼虫を捕殺する。

3 食入孔のフラスをかき出してから下記の薬剤を注入する。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・ロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾール ＜３Ａ＞
【スカシバ類　樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射　前日／5回】

4 5月頃にフェロモンディスペンサーを設置する。

・スカシバコンＬ
【果樹類　40～100本／10a(8g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け設置する　成虫発生初期～終期／－】

ケムシ類

防除方法

1 発生の初期に下記の薬剤を散布する。

・フェニックス顆粒水和剤 ＜２８＞【4000倍　前日／2回】
・サムコルフロアブル10 ＜２８＞【2500～5000倍　3日／3回】
・カスケード乳剤 ＜１５＞【小粒核果類　2000～4000倍　14日／2回】
・ＢＴ剤 ＜１１Ａ＞(Ｘ果樹類の病害虫防除　果樹類　参照)

クビアカツヤカミキリ

留意事項

1 幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。食害は5月～6月に最も盛んになる。
2 成虫は6月～8月頃に出現し、幹や樹皮の割れ目に産卵し、10日前後で卵がふ化する。
3 幼虫の食入した穴から出るフラス(かみ砕いた木くず・フン・樹脂の混合物)は、うどん状でこのフラスがある穴には幼虫がいる可能性が高い。フラス排出部位は、地表に現れた太い根から2mまでが多いが、3m以上の高い場所の場合もある。
4 キルパー40を使用するにあたっては、加害された伐倒木を集積したものまたは枯損木に、所定薬量を散布し、直ちにビニールシート等で密閉し所定期間(14日間以上)くん蒸する。
くん蒸処理にあたっては、ガス化効率を十分確保するため日光の当たるところを選ぶほか、被覆するビニールシート等が風によりめくれないようにシートの裾は十分土等でおさえる。また、地面に接した部位の効果が不十分となる場合があるので、集積する際は枕木を入れる。

防除方法

1 成虫は見つけ次第、捕殺する(6月～8月)。
2 株元から2m程度の高さまで防虫ネット（目合4㎜以下）を二重、もしくは防虫ネット（目合0.4㎜以下）を一重に巻き付け、羽化した成虫を閉じ込める。巻き付ける際は、上端、下端には隙間ができないように固定し、樹幹部はネットと幹表面の隙間を空ける。成虫がネットをかみ切ったり隙間から脱出したりする場合があるので、ネット設置後も定期的に見回り捕殺する。
3 うどん状フラスを見つけたら、フラスが出ている穴に千枚通しや針金等を入れ、フ

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ラスをかき出してから下記の薬剤を注入する。

・ロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾール ＜３Ａ＞
【カミキリムシ類　樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射　前日／5回】

4 成虫発生期に下記の薬剤を散布する。

・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【2000倍　前日／3回】

・テッパン液剤 ＜２８＞【小粒核果類　2000倍　前日／2回】

5 被害の大きい樹や枝は9月～翌年3月の間に伐採・伐根し、破砕、焼却もしくは下記薬剤でくん蒸処理することにより適切に処分する。

・キルパー40 ＜８Ｆ＞
【すもも(伐倒木、枯損木)　被覆内容積1㎥当たり原液750～1500ml　成虫羽化脱出前／1回】

ハダニ類

留意事項

1 葉がかすり状になってからでは手遅れであるため、早期発見に努める。

2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 発芽前に下記の薬剤を散布する。

・石灰硫黄合剤 ＜ＵＮ＞【落葉果樹　7～40倍　発芽前／－】

2 発生の初期に下記の薬剤を散布する。

・スターマイトフロアブル ＜２５Ａ＞【小粒核果類　2000倍　前日／1回】

・バロックフロアブル ＜１０Ｂ＞【2000倍　7日／2回】

・サンマイト水和剤 劇 ＜２１Ａ＞【1000～1500倍 14日／1回】

・カネマイトフロアブル ＜２０Ｂ＞【1000～1500倍　3日／1回】

・マイトコーネフロアブル ＜２０Ｄ＞【小粒核果類　1000～1500倍　3日／1回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。